

愛すれば この街 この人 尽くし続けて 感動を…

～会社のご案内～

室蘭霊柩自動車は、貨物自動車運送事業法によって認可を受けて、ご遺体の搬送を行う一般貨物運送事業者（霊柩）です。私たちは、日常、葬儀執行時、また、病院から自宅へのご遺体搬送を行うことは勿論のこと、地震・風水害等の自然大災害及び航空機事故・列車事故等の大規模事故などにも、全国霊柩自動車協会の組織を挙げて対応いたしております。

霊柩自動車運送事業の根底には、常に人の死という人間の尊厳に関わる問題があることを見つめ、その使命の達成のために日夜努力しております。

当社は一般社団法人 全国霊柩自動車協会の正会員です。

おくる心を大切に…



有限会社 室蘭霊柩自動車

本社／〒051-0015 室蘭市本町1丁目1番15号

TEL 0143(24)3421／FAX 0143(22)2083

ホームページ <http://takedagroup.com>

会社概要

【 社 名 】	有限会社 室 蘭 霊 柩 自 動 車
【 所 在 地 】	室蘭市本町1丁目1番15号
【 電 話 】	0143(24)3421
【 F A X 】	0143(22)2083
【 代 表 者 】	代表取締役 武 田 亮 二
【 資 本 金 】	3, 000, 000円
【 銀 行 】	室蘭信用金庫本店・北洋銀行室蘭支店
【 設 立 】	昭和31年10月4日 〔 創業 昭和4年9月1日 〕
【 免 許 】	昭和31年10月4日 札幌自認第749号
【 認 可 台 数 】	5台（宮型車1台、バス型車2台、普通車2台）
【 事 業 内 容 】	一般区域貨物自動車運送事業(霊柩)及びその付帯する一切の事業
【 所 属 団 体 】	一般社団法人 全国霊柩自動車協会会員 北海道霊柩自動車協会会員 室蘭霊柩自動車協会会員

会社沿革

昭和04年09月01日	霊柩自動車組合 発足 開業 発起人代表 武 田 富 亮 発起人 末 友 孝 市 高 城 伊 七 吉 岡 勇 次 石 田 亮 順 土 生 つ る
昭和31年10月04日	有限会社 室蘭霊柩自動車 設立 認可台数4台(特別車1台 普通車3台) 資本金 1, 000, 000円 代表取締役 武 田 富 亮 取締役 武 田 は る 武 田 尚 三 監査役 末 友 孝 市
昭和47年04月01日	役員変更 取締役会長 武 田 富 亮 代表取締役 武 田 三 男
昭和59年12月01日	本社移転 室蘭市幸町5番4号
平成05年04月01日	役員変更 代表取締役 武 田 三 男 常務取締役 武 田 亮 二
平成06年09月01日	本社移転 室蘭市本町1丁目1番15号
平成06年11月16日	資本金 増資 3, 000, 000円
平成12年09月01日	役員変更 取締役会長 武 田 三 男 代表取締役 武 田 亮 二
平成17年05月20日	役員変更 代表取締役 武 田 亮 二

室蘭霊柩自動車は「ご遺体搬送」と「霊柩車」の専門会社です !!

24時間365日 ご遺体の搬送を承ります。

- 病院からご自宅・葬斎場へのご遺体搬送。〔バン型霊柩車〕
- ご自宅から葬斎場へのご遺体搬送。〔バン型霊柩車〕
- 室蘭地区(室蘭市・伊達市・登別市)から他の市町村へのご遺体の搬送。〔バン型霊柩車〕
- 他の市町村から室蘭地区(室蘭市・伊達市・登別市)へのご遺体の搬送。〔バン型霊柩車〕
- 室蘭地区(室蘭市・伊達市・登別市)葬斎場から火葬場への霊柩自動車の運行。
〔バス型霊柩車・宮型霊柩車・洋型霊柩車〕

主な取引先

株式会社 武田公益社 / 株式会社 室蘭市民斎場雲上閣 / 株式会社 伊達公益社 / 石田テンレイ 株式会社
よしおか葬祭 株式会社 / 株式会社 室蘭典礼社

病院・介護施設・老人ホームの管理者様へご案内!!

当社では、病院・介護福祉老人ホーム等の業者様のご依頼により**年中無休24時間体制**でご遺体の搬送業務を承ります。

病院や介護福祉老人ホーム等で亡くなられた故人様をご自宅まで搬送いたします。

室蘭市外からの入院・入居されている方のために、搬送地域は、室蘭地区及び北海道内にも対応いたします。

ご遺体を搬送する場合は専用の担架・ストレッチャー搭載の搬送車でお迎えにまいります。

また、ご遺体を移動する際に使用するお布団（担架布団）もご用意いたします。

ご遺体の処置を必要とする場合は当社提携の納棺師にて施す事も可能です。

また、故人をご自宅にお連れできない場合（お部屋が狭い・高層マンション等）がございましたら当社、関連会社の施設にご安置する事もできます。

室蘭霊柩自動車は、**一般社団法人 全国霊柩自動車協会 正規会員事業者**です。

安心してご依頼下さい。

ご質問、ご不明な点がございましたら、何なりとお気軽にお問い合わせ下さい。

一般社団法人 全国霊柩自動車協会 <http://www.O9net.jp/pc/index.html>

おくる心を大切に...



有限会社 室蘭霊柩自動車

本社／室蘭市本町1丁目1番15号 慈心院本館内

～年中無休24時間体制～

もしもの時に...

TEL 0143-24-3421

霊柩運送事業とは

霊柩運送事業は、「貨物自動車運送事業法」に基づいて、一般貨物自動車運送事業として国土交通大臣から許可を受けた事業者だけが行うことができるライセンス事業です。霊柩運送事業は、この法律の名称のとおり、貨物自動車（トラック）運送事業の仲間とされています。

これは民法上の規定によって「人間」はその死を境に「物」に変わるため、その「物」であるご遺体を搬送する霊柩運送事業は、貨物自動車運送事業であるということが理由となっています。

しかしながら、私どもは、ご遺体が単なる「物」であるとは考えていません。人間の死という、ご家族にとって大変に重い出来事の中で、いかに人間としての尊厳を損なわずに、その役割を果たせるかに最大限の配慮を払っています。また、ライセンス事業であることから、ご遺体を搬送するための霊柩自動車は、営業用自動車に与えられる「**緑ナンバー**」が必ず装着されています。

つまり、**自家用車（白ナンバー）のご遺体搬送は 法律違反**となります。

霊柩運賃・料金の仕組み

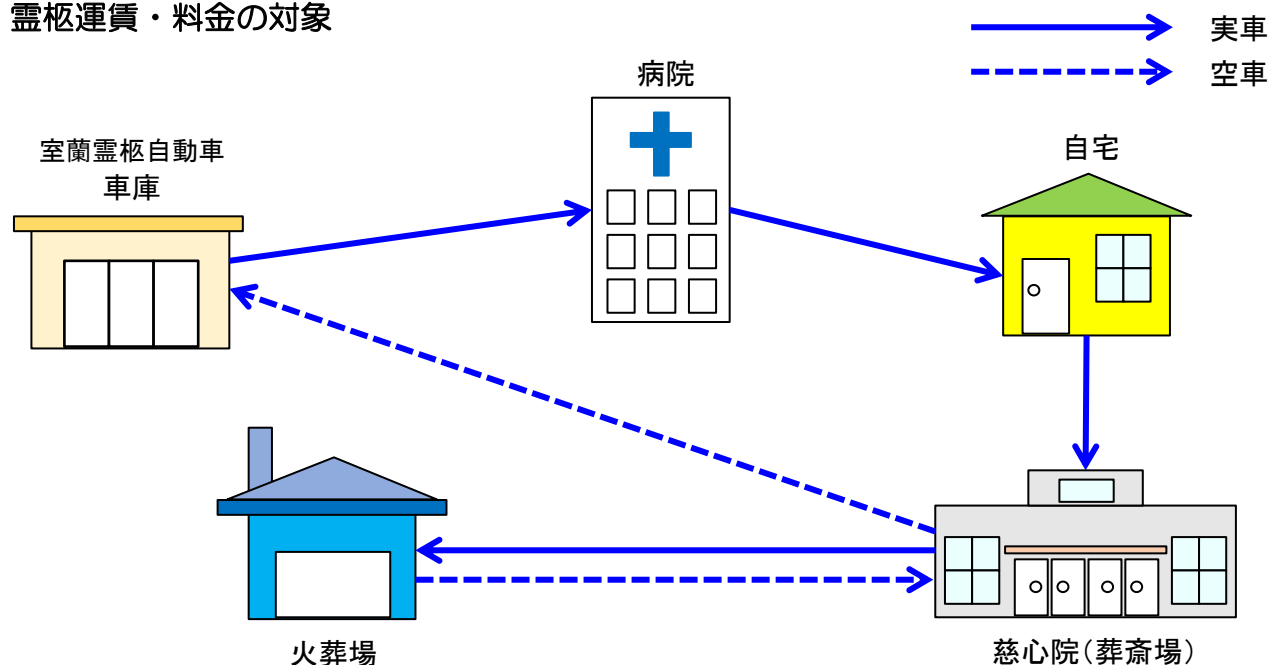
霊柩自動車の運賃及び料金は、各社ごとに国土交通大臣に届出を行い、その内容が適正であると認められた額が適用されることとなっています。

したがって、霊柩運送事業者が、他人の需要に応じ霊柩自動車でご遺体を搬送する場合は、届出した運賃及び料金が適用されますので、無償（無料）の搬送はありません。

※無償（無料）のご遺体搬送行為は違法です。

霊柩運賃及び料金の計算方法は、ご利用される霊柩自動車の種類や走行距離などによって金額が異なります。原則は、ご利用された霊柩自動車の車庫から起算し、ご遺体のお迎え場所（病院や自宅及び葬儀式場）を経て、ご遺体をお連れした場所（自宅や葬儀式場及び火葬場）までの間の走行距離に応じた金額となります。

霊柩運賃・料金の対象



距離別料金表

距離	夏季金額	冬季金額
10 km	¥15,870	¥19,050
20 km	¥21,080	¥25,290
30 km	¥26,280	¥31,540
40 km	¥31,490	¥37,790
50 km	¥36,690	¥44,030
60 km	¥41,900	¥50,280
70 km	¥47,100	¥56,530
80 km	¥52,310	¥62,770
90 km	¥57,520	¥69,020
100 km	¥62,720	¥75,270

主に病院などお亡くなりになられた場所から、ご自宅や斎場へご遺体を搬送する際の料金表です。

夏季と冬季では料金が異なりますので、ご利用される時期をご確認ください。

料金は消費税込みで表示されております。

10km単位で、実際に走行する距離から算出されます。

100km以上の料金も、10km単位で料金分けされております。

ご不明な点などございましたら、お気軽にお問合せ下さい。

夏季料金期間は4/16～11/15

冬季料金期間は11/16～4/15

霊柩自動車のご案内

■バス型霊柩車



乗車定員 41名

乗車定員 40名

車両台数 2台

■バン型霊柩車



乗車定員 3名



乗車定員 6名

■宮型霊柩車



乗車定員 3名

主に病院からご自宅、ご自宅から葬斎場に搬送する車両です。

地方搬送にも使用いたします。

■洋型霊柩車



乗車定員 6名

■マイクロ送迎バス



乗車定員 26名

乗車定員 26名

車両台数 2台

ご遺族を送迎する車両です。

野辺の送り



昔の葬列（野辺の送り）は、現在、交通事情や社会の変化により無くなってきました。

しかし、私たちは、日本の伝統文化である葬霊儀式の「ご遺体を輿に入れて担いで送った」部分を現在の社会事情に沿った形で、輿付自動車「宮型霊柩自動車」として現在も運行しています。

霊柩自動車の誕生

日本における霊柩車の誕生については、大阪・名古屋・金沢・東京など、それぞれの地区が最初だとの説がありますが、大正の初期（5年頃）に大阪で第1号車が作成されたというのが現在は定説になっています。いずれにしてもこの時期に各地において霊柩車が走り始めたといっていよいでしょう。

霊柩車の形状自体は現在のものと基本的に変わりありませんが、当時の日本では量産型の自動車はなく、フォードやハドソンなどに屋根を着けたり彫刻を施したり、あるいは生花で飾り付けをするなどしていたようです。

歴史的な霊柩車のご紹介



輿

遺体を納めた棺を置き、担いで運ぶ。屋根は唐破風となっており、宮型霊柩車の原点となっている。



駕籠

明治初期頃まで使用された駕籠。



棺車

大八車に輿を乗せたもの。二方破風の屋根、側面には花鳥等の彫刻を施し装飾、形状共に宮型霊柩車に近づく。



日本初期の霊柩車
ビム号 大正7年



昭和2年の宮型霊柩車
シャーシはパッカード

現在の特別車（宮型霊柩車・洋型霊柩車）



関東型



名古屋型



関西型



金沢型



洋型車

特別仕様の車両

車体の構造に高級堅木材等を使用し彫刻、絵画、金具飾、漆塗装による工芸装飾を施した車両（宮型霊柩車）。及び、欧米式の特別な装備装飾を施した車両（洋型霊柩車）。

現在の普通車（バス型霊柩車・バン型霊柩車）



バス型車



バン型車

普通車

特別車以外のもので、主として病院等からのご遺体搬送に使用される車両（バン型霊柩車）。又は、ご遺体及び随行者のご遺族を乗せて輸送する車両（バス型霊柩車）。

次世代霊柩車の彩色立体モデルとデザイン画出展者



浅井 慎平 氏（写真家）



南 伸坊 氏（イラストレーター）



藤森 照信 氏
（東京大学教授・近代建築）



應 蘭芳 氏（女優）



片山 右京 氏（元F1レーサー）

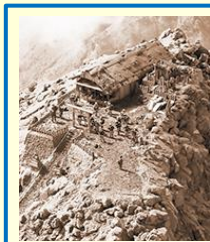


一般社団法人 全国霊柩自動車協会

私たちは、自治体の要請に応え、災害時の緊急遺体搬送に協力します。

これまで全国霊柩自動車協会では、古くは九州の三井三池炭鉱爆発事故及び岩手県雫石全日空機墜落事故、全日空機東京湾墜落事故、日航機羽田沖墜落事故、川治温泉ホテル火災事故、ホテルニュージャパン火災事故、日航ジャンボ機墜落事故、高知県高校生中国列車事故、自衛隊潜水艦なだしお衝突事故、近年では信楽高原鉄道事故、北海道西南沖地震、名古屋空港中華航空機墜落事故、阪神・淡路大震災、東日本大震災、御嶽山噴火災害等々、多くの緊急災害発生時において組織と輸送力を動員し、積極的に協力して公共的輸送機関として大きな役割を果たし、国及び自治体より多くの感謝状を受けております。

※昭和60年以降に一般社団法人 全国霊柩自動車協会が協力した災害です。



御嶽山噴火災害
平成26年9月27日
死亡者 58名
出動 26社／56両



北海道南西沖地震
平成5年7月12日
死亡者 201名
出動 10社／41両



北海道佐呂間町竜巻災害
平成18年11月7日
死亡者 9名
出動 6社／7両



信楽高原鉄道衝突事故
(滋賀県)
平成3年5月14日
死亡者 42名
出動 22社／39両



阪神・淡路大震災
平成7年1月17日
死亡者 6,433名
出動 181社／204両



福知山線脱線事故
(兵庫県)
平成17年4月25日
死亡者 107名
出動 7社／73両



中華航空機墜落事故
(旧名古屋空港)
平成6年4月26日
死亡者 264名
出動 71社／415両



東日本大震災
死亡者 15,852名
(平成24年3月現在)
出動 190社／940両



日航機墜落事故
(群馬県・御巣鷹山)
昭和60年8月12日
死亡者 522名
出動 101社／956両



潜水艦衝突海難事故
(東京湾)
昭和63年7月23日
死亡者 30名
出動 13社／13両

→ 自然災害
→ 交通災害